

WWD

JAPAN

March 1, 2021 vol.2176

「グッチ」は再び成長軌道に乗れるか

p.8

2021-22年秋冬メンズ ニュース4選

p.9

国内ビューティ大手3社の復調の鍵は?

p.10

サンプルレス、適量生産
開発のリードタイム短縮…

デジタル化で加速する

サプライチェーン革命

繊維商社のDX戦略とは?

三菱商事ファッション×ワークマン

三井物産アイ・ファッション×ゴールドウイン

豊島×トライアルカンパニー etc.



ブルな服作りを実現する

三菱商事ファッション × ワークマン

最先端のフィッティングマップで着圧を可視化

DXを駆使したサプライチェーンのシステム構築が最も先進的なのは三菱商事ファッションだろう。中でも、快進撃を続ける作業服のワークマンとの取り組みは緊密だ。三菱商事ファッションが手掛ける耐久撥水などに優れた機能加工「ディアマジック ダイレクト」の使用をきっかけに約3年前から拡大し、商品作りの重要なパートナーとなっている。

双方のアイデアをキャッチボールしながら



ワークマン専用で作成されたフィッティングマップは着圧を可視化できる

らデザインした3Dモデリングによるデジタルサンプルチェックで商品開発を進めており、さらにアニメーションによる展示会開催や、CGをEC用に転用する施策など、デジタルを利用した効率的な次世代型ビジネスモデルを内製で整備中だ。

ワークマンの中野登仁商品部ワーキングウェアマーチャンダイザー兼「Field Core」ブランドマネジャー、チーフデザインオフィサーは、「三菱商事ファッションの商品開発に向けた総合力と実行のスピードが当社のテンポに合っている。こだわりが人一倍強い私は通常10回ほどサンプルの修正を繰り返すが、2〜3週間でしていたサンプル制作が3DCGによる5〜10分の修正で早期に済んでしまう」とDXの効果を話す。独自のデジタルツールも開発中で、体の動きによって着圧を可視化してパターンを検証できるフィッティングマップはワークマン用に

アバターを制作した。「例えば、かかんだ時はパンツのどの部分にどのくらいの圧がかかるのか。日常着とは違うサイズ感を持つ作業服にとって、スムーズな動作を生み出すパターンが最も重要で、制作に時間がかかる。ワークマンの標準サイズを共有してカスタマイズができることで着心地の精度が高まっている」。3DCGで作成したサンプルと、実際に出来上がった商品とのギャップを埋めるマンツーマンの取り組みだ。

ワークマンの2020年4〜12月の営業総収入は前年同期比16.1%増の831億円、営業利益は同23.6%増の201億円とコロナ禍でも高伸した。「好調理由はいろいろあるが、商品について言えば、驚きの機能を軸にデザインと価格のバランスが差別化につながっていることだ」と説明する。

「商品開発、店舗のオペレーション、働き方改革などあらゆる場面でDXが必要だ。ワークマンが信頼されている低価格を大切にしながら、一つ一つデジタル化を図ることで、コスト削減につながるスピードアップや効率化を進めたい」とDXの可能性に期待を示した。

三菱商事ファッションの片岡翔太・営業第三部第2部Cチーム兼第1部Aチームは、



左から、三菱商事ファッションの高尾康太・営業第三部第2部Cチーム、山口真デジタル事業推進本部デジタル事業開発部新規取引開発室(M1-TCA)、片岡翔太・営業第三部第2部Cチーム兼第1部Aチーム、ワークマンの中野登仁商品部ワーキングウェアマーチャンダイザー兼「Field Core」ブランドマネジャー、チーフデザインオフィサー、松尾本智商品部ワーキングウェアバイヤー

「ワークマンの成長スピードに対応した提案はDXで可能にできる。フィッティングマップなど蓄積される価値あるデータを駆使して、今後もコスト削減につながる精度の高いモノ作りを発展させたい」と話した。



3DCGで360度の方向から確認できる「ワークマン」のパンツ

